

## カリキュラム



# カリキュラム

受け身型教育ではなく自己啓発型教育を行い、6年間を通じて、一般教育・基礎医学・臨床医学・社会医学の各分野を総合的に学修し、人間性に溢れた倫理観のある人材育成に努めます。

### Step. 1

#### 多彩な選択必修科目、自校教育、医学の基礎

医師を目指す者として必要な教養を身につける。

#### 1年次

人工知能(AI)やロボットが進歩しても、医師という職業がなくなることはありませんが、仕事内容は変わらざるを得ないでしょう。科学的な知識、思考、技術については、AI・ロボットの助けを借りることが増え、医師にはAI・ロボットを使いこなす能力と、AI・ロボットに無い能力が求められるようになります。「数理生命科学基礎」ではAIについての基本的な知識や簡単な操作を学修し、さらに詳しく学びたい学生は「数理科学」を選択することができます。AIにない能力とは人間に対する深い理解と優しさです。「医系人文科学入門」「医系社会科学入門」「医療法学」「生命倫理学」「行動科学」「情報科学」「生体理工学」「生体分子化学」など豊富な必修科目、選択必修科目を開講しています。また、「学際的研究」では、総合大学である日本大学のメリットを活かし、文学部での授業を受講できます。これらの授業を通して、AI時代を生き残るための教養を身につけてください。

「自主創造の基礎」「医学序論」では、医師になるための学修を進める上での土台を作ります。場面に応じたコミュニケーションを学修し、介護・福祉・接遇等に関する専門家の指導を受け、医学生として誠実な態度に基づく他者とのかかわりの重要性を認識します。また、医療・福祉の現場に赴き、医学生としての自

覚をもった基本態度を身につけ、自分のキャリアについて考えることにより、6年間の主体的学修目標と目指す将来像を明確にできます。

入学者選抜で生物を選択しなかった学生のための授業として、1年次前期に「基礎生物学」があります。この授業により、基礎医学を学ぶのに必要な生物学の知識を身につけることができます。そして後期には、基礎医学（「解剖学」「生理学」「生化学」）の授業が始まります。ここでは、基礎医学の骨格となる知識や考え方を学び、2年次から本格的に基礎医学を学ぶ準備をします。



### Step. 2

#### 基礎医学系統講義 / 基礎医学統合試験

医学の基本である人体の構造・機能を学ぶ。

#### 2年次

基礎医学は、生体が生命維持のために進化させてきた構造・機能を系統的に理解することにより「正常人体の仕組みの理解」を行うことを目的としています。これを理解していれば、病気の名前を知らなくてもどこが悪いのかということをはっきりとすることができます。同時に、正常の状態を理解することは、病気を理解する上でも役立ちます。このように「正常人体の仕組みの理解」と「病態の理解」という2点を学ぶことを主眼に置き、臨床医学を学ぶための土台作りをします。2年次には、解剖学実習をはじめとする多くの基礎医学実習が行われます。講義と実習・演習を組み合わせ、頭と手を同時に使うことによって効果的に学修を進めることができます。さらに、3年次から始まる臨床医学

の準備として「病理学」「薬理学」「微生物学」など病気に関係の深い基礎医学を学修します。2年次に学ぶ内容は4年次の共用試験CBT（後述）にも出題されるので、しっかりと身につける必要があります。

#### 基礎医学統合試験

2年次の年度末に行われる基礎医学統合試験では、1、2年次に学修した基礎医学の知識が総合的に問われます。ここで知識の定着を図ることで、3年次からの臨床医学の学修が実りあるものになります。また、その効果は4年次共用試験CBTでも表れます。



### Step. 3

#### 臨床医学・社会医学

生涯にわたり自分で考え、自分で解決する学修習慣を身につける。

#### 3年次

##### 臨床医学

近年の医学の著しい進歩によって医学の知識の量は膨大となり、従来の講義中心の受け身型教育では対応が困難になってきています。加えて卒業後も学び続けなければならない医師にとって、詰め込みによる知識の記憶には限界があるので、自分で考え、自分で問題点を抽出し、解決に向けて努力するという学修習慣を定着させることが重要視されるようになってきました。そこで学修プロセスの新たな形態として導入されたのがPBL(Problem Based Learning) テュートリアルです。PBL テュートリアルとは提示された症例に関して6~8名程度のグループディスカッションを行い、学生自ら問題点・解決法を抽出していく授業です。

各グループに1名のテューターと呼ばれる教員が配置されていますが、学生に対して講義は行わず、グループ討議の調整役に徹します。従来の講義形式の知識伝達型教育とは異なった学生主体の新しい医学教育法であり、問題発見能力・問題解決能力、自学自習の態度・習慣や人とのコミュニケーション能力など、知識の獲得だけではなく、医師として生涯にわたり学修を続けていくことのできる生涯学習者の姿勢を身につけることを目的としています。

##### 社会医学

2019年から始まった新型コロナウイルスの流行は、社会と医学が密接に結びついていることを改めて示しました。社会、経済、生活、自然の環境が病気の原因になるばかりでなく、病気は人間を取り巻く環境を変えてしまいます。また、医療行為が倫理的に行われるべきなのは言うまでもありませんが、同時に制度や法律に基づいて実施されています。社会医学では、こうした医療と社会の関わりについて学修します。

